

(1) 事業名称等

【事業名称】 鎌倉・玉縄の重文古民家と歴史民俗資料館の管理活用事業

【実施団体】 玉縄城址まちづくり会議

【事業経費】 520,000円



鎌倉市玉縄城址周辺



国指定重要文化財  
旧石井家住宅



イベントチラシ

(2) 事業の目的

玉縄城址まちづくり会議では、地域インフラを創るのは「ボランティアの力」であるとの考えをもとに活動している。この考えを基本に「足元にある歴史の素晴らしさ再発見、及び地域市民との共有」をめざし、これによって「鎌倉・玉縄フィールドミュージアム」へ「市民行政の協働による新しい玉縄のまちづくり」を達成させることを活動目標にしている。

こうした当会の活動目標を背景として、今回の文化庁委託事業の目的は地域の文化財建造物を再発見すること、これを地域ぐるみで活用すること、「文化を繋ぐ、歴史を繋ぐ、手技を繋ぐ、人々を繋ぐ、未来へ繋ぐ」という5つの繋ぐ課題の達成を事業目的としたものである。

(3) 事業活動の内容

●事業委員会の開催

平成27年7月18日から2月27日まで、計15回開催し各事業を推進した。

1. 文化を繋ぐ：若い母親と異世代交流の「昔の暮らし衣食住」ワークショップ

実施日	会場	内容	講師名	実施体制
9/17(木) 10:00-13:30	古民家 資料館 多目的室	① 旬の食事と食の大切さを学ぶ ② 刀匠から和包丁の研ぎ方を学ぶ	渡邊公子 山村綱廣	横内、荒井 寺口、杉山 増川、松田
*3/3(木) 10:30-13:00	古民家 多目的室	① 昔の暮しと着物、着付け体験 ② 雛祭りの食事	渡邊公子 田邊恵美 宮崎美枝子	森、山本日 團野、江口 青木、大江

<事業概要>：講師2名、参加者28名、文化庁視察委員2名、随行者2名実施体制10名。渡邊公子フードデザイナーが実践に基づく講話と旬の食材料理を指導した。若い母親が母にも祖母にも聞いたことがなかったと「食材と体の仕組みの関係」に反応。20代から70代まで異世代交流が実現した。また鎌倉の刀匠から包丁研ぎの指導は、男性参加者にも好評。3月3日講師3名、参加20名、実施体制12名で、75年前の江戸風5段飾りと京風の内裏雛を飾る。大正、昭和の着物を飾り、司会は観光協会英語ガイドの田邊さん。着物寄

贈者の宮崎さん、渡邊さんも参加。暮らしと着物を語り合い、4世代で参加した、若い祖母にクリーム色の訪問着を着付け、卒園式参列の手伝いことができました。雛の節句に昔のチラシ寿司と澄まし汁、桜餅の試食し和やかな一時を過ごしました。

## 2. 歴史を繋ぐ：地域史の素晴らしさを再発見し共有し合うイベント

実施日	会場	内 容	講師名	実施体制
10/17(土) 10:00-12:30	玉縄城を偲ぶコース1 周2km	① 圓明流古武道見学 ② 玉縄城を偲ぶコースを探索	赤羽根大介	荒井、田中 熊代、荒井幸
13:00-16:00	古民家	③ 後北条氏が鎌倉に遺した文化 ④ 戦国江戸湾岸事情 ⑤ 鼎談：英雄綱成の時代-検証	山口 博 真鍋淳哉 玉林美男	増川、横内、森 他9名、鎌倉もの ふ隊10名

<事業概要>参加者58名、招待者18名、実施体制26人。戦国玉縄城三代城主北条綱成生誕500年を記念し「綱成の日まつり」を開催。全国からお城ファン、玉縄城家臣の末裔も集結。小田原市山口学芸員が氏康時代の玉縄城の重要性を語り、横須賀市歴史編纂に携わる真鍋氏は、北条と里見の江戸湾岸の攻防を解説。鼎談には、玉林市文化財学芸員も加わり川越夜戦の鎌倉警護の様子や、小田原から鎌倉和賀島への潮流の話など珍しい話に関心が集まった。早朝雨のため遠方の18名が欠席した。



熱気あるワークショップ会場



雛飾り展示



玉縄城再発見セミナーNo.25

## 3. 手技を繋ぐ：唐箕、手桶、実繰等の補修・竹細工制作と動態展示

実施日	会場	内 容	指導者	実施体制
7/28, 8/4, 10	古民家	民具の補修：味噌樽、むしろ、秤、たらい、唐箕、実繰り	田中八郎	荒井幸、増川 山本日、新谷
11/3~2/20	歴史民俗資料館	動態展示：和綿の実繰り、唐箕、秤、糸車 モッコと天秤棒を担ぐ体験	増川勇次郎	山本昌、森 横内、松田
12/15	多目的室	竹細工：火吹き竹、竹トンボ、花入れ製作	田中八郎	荒木、鈴木
9/26, 10/10		城域模型補修：城址への道筋を記入	大竹正芳	大学、高校生ボラ
2/13~2/29		城址模型補修：周りをアクリル板で囲う	増川重次郎	ンティア4名

<事業概要>7月18日の第1回会議から作業工程を決め、夏休みの高校生ボランティアも加わり展示品リスト確認、展示コーナーの移動、手入の雑巾がけ、民具の補修を行った。2階に作業室と小学生のレポート記載場所、見学者の休憩所等の多目的コーナーを設けた。城域模型の補修は、古民家のある龍寶寺から玉縄城大手門址への道筋をカラーエナメルで現わした。また、見学者が模型に触れる部分に高さ20cmのアクリル板で囲みを作成した。

#### 4. 人々を繋ぐ：重文古民家と歴史民俗資料館での市民キュレーター養成講座

実施日	会場	内 容	出演者	実施体制
11/10 10-15	古民家	博物館学芸員しごとについて	羽毛田智幸	荒井幸子
	玉縄歴史	民具の整理実習	玉林美男	横内宏明
17 10-13	民俗資料館	重文古民家石井邸の概要と見学 ・出土品整理額実習	浪川幹男 松島義章	森靖子 山本日出子
24 10-15		展示品補修作業 創造性開発のヒント	荒井幸子 玉林美男	松田明 他市民 10 名
1/19-2/28	多目的室	館内案内リーフレット製作		荒井幸子ほか

<事業概要> 4人の講師から「博物館デビュー」「古民家の歴史」「2万年前の相模湾にいた貝が現在は宮崎県にしかない話」「キュレーターの作業入門」まで学習。



動態展示：補修後に実練り



地域の長老の竹細工製作講座



江戸期の民具を発見

#### 5. 未来へ繋ぐ：市民学芸員による小学生むけ社会科体験学習対応の総合的強化

実施日	会場	内 容	案内	実施体制
7/21	玉縄城を	市鎌倉郷土研究研修会案内 21人	玉林美男	荒井章
8/21	偲ぶコー	安良岡教育長と事業打合せ		荒井幸子
12/14	ス	市小中学校校長会に対応文配布		熊代徳彦
12/24, 1/14, 15, 22	古民家	担当教諭の下見 4校 12人		横内宏明
	歴史民俗	【小学生の昔の暮らし体験学習】		山本昌男
1/14, 15,	資料館	玉縄小3年2クラス×2日間 93人+5人		山本日出子
27		腰越小3年2クラス 63人+5人		新谷紀美子
28		小坂小3年3クラス 100人+5人		増川勇次郎
29		今泉小3年3クラス 74人+4人		寺口順子
2/05		第一小3年3クラス 120人+5人		森靖子
10		関谷小3年2クラス 66人+3人		松田明
16		御成小3年3クラス 93人+5人		鈴木修吉郎
26		大船小3年3クラス 98人+4人		團野房子
3/01		植木小3年2クラス 68人+3人		江口和美
10		清泉女学院中学校2年 43人+4人		青木英里子

<事業概要> 参加者 818 名、教員 76 名、実施体制延べ 18 日、延べ 125 人で対応。 \* 予定インフルエンザの学級閉鎖で 2 校が日程変更、1 校が 2 日間の予定が付かず中止となる。



囲炉裏を囲んで顔合わせ



歴代玉縄城主の幟に触れる



ストーブの煙が目にも染みる

#### (4) 事業の成果

- ・若い母親と家族、各世代層に重文古民家の関心が生まれ活用の接点があった
- ・子どもに「触る・動かす・やってみる」楽しさを実感させ、学ぶ機会を提供できた
- ・受講者に展示の仕方、整理の仕方など学芸員の「いろは」を植えつけられた
- ・古民家、資料館を「触る、嗅ぐ、聴く」感覚解放の場にする体験指導のヒントを得た
- ・子どもたちに伝える楽しさ、伝える難しさ、伝える責任を改めて体感してもらえた
- ・一挙にスキルアップし、玉縄フィールドミュージアムのガイド育成にもつながった
- ・会員の学習意欲が刺激され、「市民学芸員」への道筋をつけることができた
- ・企画者も参加者も、生活者感覚で地域史を捉える新たな視点を得られた
- ・地域史を知ることが郷土愛の入口であることを、受講者に植えつけられた

以上5つの繋ぐ事業から得られたことは、受講者と送り手自身にとって実に大きかった。この経験知を起点に、重文古民家と民俗資料館のあらたな活用事業の可能性が広がってきた。文化財建造物—古民家を舞台とする地域づくりの展望も開けてきた。

#### (5) 事業実施後の課題

5つの繋ぐ事業に得た経験から、私たちはさらに地域住民へ広報戦略として「いかに効果的に伝え」「いかに効率的に繋ぐ」のか。そして会員自身の一層の自己啓発をいかに働きかけていくか。これを実施後の課題とした。

#### (6) 今後の展開

- ・5つの繋ぐ事業体験からいくつもの次への展開のヒントが生まれている
- ・重文古民家をコミュニティづくりの有効な場に活用するため「古老10人インタビュー」「子どもと古老のひそひそ話の会」など異世代交流イベントを組む
- ・小学生体験学習は当会のメイン事業であり、文化だけでなく里山活動でも展開させる
- ・動態展示は、自分がわくわくすることを選ぶ、それが子どもをわくわくさせるから
- ・洞窟体験、土間で餅つき、囲炉裏を囲む昔噺、など子どもの異世界体験を広げる
- ・「第3の教師」に会える場所に、教室外教育の中心にする
- ・古民家を地域文化の中心に：落語、邦楽会、薩摩琵琶、茶会、華道展等を展開
- ・幼稚園児から100歳まで【自作販売】する楽市楽座を古民家を中心に開く
- ・地域市民に積極的文化活動参加を呼びかけ。そのためのクチコミ広報を考えていく
- ・地域の店舗、施設と連携し、そこを拠点にボランティア参加を呼び掛ける

#### (7) その他

玉縄地域には、江戸後期の「平井家住宅」、昭和初期の「駅弁の大船軒」などが残る。